

「居心地の良い会社づくり」への取り組み通じ 父・母・自分が築き上げた会社を守り抜く

山武市に本社を構える(有)石橋陸商（石橋春世代表取締役）は、地元で生産される様々な青果物のほか、住宅資材の輸送も手がけてきた。創業者である父親、そして2代目社長（現会長）である母親が築き上げてきた同社の歴史を何としても守るべく、3代目社長として日々奮闘する石橋社長。千葉県トラック協会における業界活動によって生まれた業界の仲間たちとの交流も活かしながら、石橋社長は「従業員にとって居心地の良い会社づくり」への取り組みを進めている。



エメラルドグリーンのキャブが鮮やかな同社のウイング車の前に立つ石橋社長

■青年部会・女子部会に積極的に参加

業界や自社の未来を支える「仲間たちとの交流」

(有)石橋陸商は、石橋社長の父親によって昭和59年に松尾町（現・山武市）に設立された運送会社である。設立当初から青果物の輸送を手がけていた。30年ほど前から住宅資材輸送に乗り出し、現在は青果物と住宅資材が主な輸送品目となっている。なお、石橋社長の父親は18年ほど前に他界し、その後は9年半ほど石橋社長の母親が社長を務めていた（2代目社長、現会長）。

さて、住宅資材輸送を開始した当初、同社のドライバーは遠方の東北地方まで輸送することも多かった。当時は多忙のあまり、ドライバーは運行中になかなか仮眠が取れないような状況だった。そうしたことも背景として、同社では、東北地方への輸送から撤退し、関東地方1都6県への輸送に切り替えた。また、2代目社長は事故を惹起することの多かったドライバーと個人面談を行い、「事故を起こさないために、ゆっくりと休息をとること」の重要性を切々と訴えた。さらに、かつては住宅資材を建設現場に直接輸送しなければならなかったことから、到着時間の厳守が強く求められていたこともあり、遅延が見込まれる時にドライバーが焦ってしまい、事故に繋がってしまうことも多かった。しかし、現在では物流センターに輸送することがほとんどとなり、ドライバーが受けるプレッシャーは軽減された。こうしたことなどがあって、同社では事故発生数が大きく減少。現在では、自動車保険の割引率も最高の状態を維持しているという。

同社における事故防止対策としては、年に1回ほど外部から講師を招き、講習会を実施。社外の人から講義を受けることで、ドライバー達も新鮮な思いで真剣に話を聞き、事故防止に対する意識も高まっているという。

「現在は、かつて会長が行っていた個人面談を引き継ぐような形で、私がドライバーに対して個人面談を行うようにしているほか、点呼の際に気分が落ち込んでいるように見えるドライバーに対しては、私から積極的に声をかけるよう心がけています。当社ではかつて追突事故が少なくなかった時期はあったものの、会社設立以来人身事故の発生はありません。また、安全性優良事業所（Gマー

ク）認定も継続して受けています。事故防止対策を通じて当社のドライバーの事故防止意識は高まっていますが、当社のドライバー達には「これまで保持してきたGマークを決して失うことのないよう、一層事故防止に気を付けるように」と伝え、事故防止意識高揚に繋げています」（石橋社長）

さて、住宅資材輸送に関しては物流センターへの輸送が主体となったことで、荷卸し待ちが大きく減少したという。

一方で、青果物輸送については集荷時間が決まっており、集荷を終えてから東京の大田市場に向かおうとすると、千葉東金道路や京葉道路、都内の主要道路の渋滞時間帯と重なってしまう。そのため、荷主に対して「渋滞に巻き込まれないようにするために、集荷時間をもう少し早くしてほしい」と訴えてはいるものの、荷主側では物流に対する理解がまだ十分ではないこともあって、集荷時間の前倒しには至っていないという。また、運賃交渉に関しては、住宅資材輸送では同社が荷主企業と直接交渉できる環境が整っていることもあり、荷主企業の側も二つ返事で交渉に応じてくれることが多いが、一方で青果物輸送では、同社を含めた近隣の運送会社数社で構成される運送協同組合が荷主との運賃交渉を行うため、個社で運賃交渉がしづらく、運賃交渉の面でも苦しい状況に立たされているという。

ところで、同社には11人のドライバーが在籍しているが、ドライバーの定着率が良く、なかには入社してから30年以上も同社で活躍し続けているドライバーもいる。最高齢のドライバーは、78歳になる石橋社長の叔父である。石橋社長の叔父は、かつては他の会社でタンクローリーやダンプ車に乗務していたが、その会社を退職後に同社に入社。現在は朝9時から12時までの勤務で、近隣にあるJAへの配達にあたっているという。一方で、同社の従業員の中で、石橋社長の息子（26歳）に次いで若いドライバー（37歳）は、これまで運送業界の経験がないにもかかわらず19



石橋 春世
代表取締役



同社では事故防止対策に力を入れており、会社設立以来重大事故ゼロを誇っている



石橋社長は2代目社長（母親）から継続してドライバーとの個人面談を行い、事故防止意識高揚に繋げている



今年6月からの熱中症予防義務化を前に、ドライバーに経口補水液を配布し、熱中症を予防している

歳で同社に入社し、20年近くにわたって同社で奮闘し続けているという。同社では、同社で長年想いをひとつにして頑張ってくれたドライバーの「居心地の良さ」を武器に、会社全体で向上していくことを目指している。

さて、石橋社長の現在に至るまでの遍歴を振り返ると、高等学校卒業を目前に控えた頃、両親から突然「この会社があなたの職場だ」と言われたという。石橋社長は両親の言葉に素直に応じ、高校卒業とともに同社に入社した。入社当時は運転免許を保持していなかったため、午前中は自動車教習所に通って運転に必要な知識や技能を学び、午後はJAで積み込み作業にあたっていた。その後、運転免許を取得したものの、初代社長の時代には大きなトラックに乗務させてもらえず、2トン車で市内の配達にあっていた。2代目社長の頃になって4トンウイング車に乗務するようになったものの、石橋社長は地図が苦手で、苦労しながら運行ルートを決死で覚えたという。なお、現在では大型トラックにも乗務している。

石橋社長が42歳の時に、65歳になっていた2代目社長が「社長の座を譲る」と言ってきたという。入社してから長年創業社長である父親から教育を受けていた石橋社長は、その時にはある程度管理者としての自社における仕事の進め方が分かっており、経営承継への心づもりはできていた。そのため、2代目社長の申し出に対して二つ返事で応じ、同社の3代目社長に就任した。

石橋社長が社長に就任してから8年目を迎えた。その間、女性である石橋社長は、取引先などとの対応の面で悔しく感じたこともあったという。一方で、同社は千葉県トラック協会山武支部に所属しているが、山武支部の他の会員事業者からは積極的に声かけをもらうことも多く、「いい支部に入会できてよかった」と感じているという。

現在、石橋社長は千ト協青年部会（幹事に就任）や女子部会（副部会長に就任）にも積極的に参加し、業界活動を広げている。

同社は設立以降早い段階で千ト協に入会していたが、初代会長は千ト協の活動にそれほど積極的に携わっていなかったという。しかし、2代目会長はとても社交的だったこともあり、千ト協の活動にも積極的に参加するようになった。そうした中で、当時青

年部会長を務めていた鈴木美佐雄山武支部長（前鈴木運送代表取締役、「会社訪問」第42回に登場）から「非常にたになる」と青年部会への参加を勧められた石橋社長は、「極度の人見知りであったこともあって、当初は参加を躊躇っていましたが、青年部会に参加するととても勉強になり、自分にとって非常にいい刺激になりました」と語った。

また、女子部会については、女子部会設立当時2代目社長が千ト協の役員を務めており、千ト協で行われた会議に出席した際に、西川茂雄常務理事（当時）から女子部会への入会を勧められたものの、2代目社長に代わって石橋社長が入会することになった。

「女子部会の皆さんは、私の母と同じようにとても社交的な方が多く、明るい経営者の方がほとんどです。男性経営者とは違う女性ならではの視点でアドバイスをしていただくことも多く、非常にありがたいと感じています」（同）

3代目社長として同社を率いるとともに、千ト協の活動にも積極的に参加し、トラック運送業界の仲間たちとの絆を深めてきた石橋社長は、現在50歳を迎えた。「父と母が大変な思いをしながら設立し、育て上げてきたこの会社を、自分の代でダメにしてはならない」との強い決意を持ちながら、同社の事業継続に向けて日々奮闘している。

「今年6月には、事業許可の更新制を盛り込んだ改正貨物自動車運送事業法が成立しましたが、運送事業者としてどのように対応していけばいいのかわからないところはまだたくさんあります。一方で、業界にはドライバー不足という、我が国の物流を維持していくために解決していかなければならない大きな課題もあります。息子の代に経営を引き継ぐ時までに、当社としてはいかにドライバーが定着できるような職場環境を整備していくか。運送事業者を取り巻く様々な課題がありますが、業界の仲間たちと話し合いながら課題解決に繋げ、業界全体や当社の未来を明るくしていくことができると考えているところ」（同）

ホットにゆーす

■飼い主の心をほんわかと癒してくれる 多くの愛犬たちとの穏やかな休日

石橋社長は昔から犬が大好きで、実家では土佐犬やシェパードなどを飼っているという。石橋社長の自宅では現在、トイプードル2匹とバセットハウンド1匹、そしてチワワも飼っており、石橋社長は愛犬に囲まれながら休日を過ごしている。

「実は、小型犬よりも大型犬の方が性格が穏やかなことが多く、横になって平和そうに寝ている大型犬の姿にとっても癒されています」（同）



石橋社長の飼っている愛犬たち。左から、チワワの「のあ」、バセットハウンドの「ゴンタ」、トイプードルの「ちゃー」

企業プロフィール

有限会社石橋陸商

代表取締役 石橋 春世

所在地 千葉県山武市松尾町下野 761-1

従業員 14人（うちドライバー 11人）

車両数 10台